

授業科目 内部障害理学療法学

【担当教員名】 榎 淳裕、松本 香好美		対象学年	3	対象学科	理学
		開講時期	前期	必修選択	必修
		単位数	5	時間数	105
【ディプロマポリシーとの関連性】					
知識・理解		思考・判断		態度	
◎		○		◎	
【概要・一般目標：G10】 内部障害の生理的変化と障害による病態変化について学んだ知識を活用して、評価および治療方法と効果について学ぶ。また、内部障害における理学療法的位置付けや役割について理解し、障害をもつ患者に対する体系的な治療方法及び治療効果についての理論的考察を行う。その上で、内部障害の理学療法において必要な評価、治療手段や手技を理解し、実施する。					
【学習目標・行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸リハビリテーションについて関心を持ち、積極的に取り組む態度で学ぶことができる。 2. 呼吸器系の解剖・運動・生理学的な知識を習得し、呼吸器疾患の生理的変化と病態について説明できる。 3. 呼吸リハビリテーションにおける情報収集の内容と評価項目を列挙し、疾患別に必要な情報収集と評価項目を選択できる。 4. 疾患別の呼吸理学療法を計画し、目的から治療効果についてまで述べるができる。 5. 呼吸理学療法に必要な評価、治療技術を習得し、実施できる。 6. 運動負荷試験について説明することができ、それに基づく運動処方ができる。 7. 心電図の基礎波形について説明でき、不整脈と運動について説明できる。 8. 心臓機能の障害とそれによってもたらされる運動制限について、説明できる。 9. 循環器疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。 10. 循環器疾患のリスク管理について説明できる。 11. 代謝疾患の理学療法の効果とその機序について、論理的に説明できる。 12. 代表的な疾患をもとに、根拠に基づいた理学療法を実施できる。 					
回数	授業計画・学習の主題			SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1-2	内部障害学・呼吸リハビリテーション総論			1	講義、担当：松本 香好美
3-4	呼吸器系の解剖学、運動学、生理学			2	講義、担当：松本 香好美
5-6	呼吸器疾患の生理的変化と病態			2	講義、担当：松本 香好美
7-8	呼吸リハビリテーションにおける情報収集と評価 1			3	講義、担当：松本 香好美
9-10	疾患別呼吸理学療法、まとめ			4	講義、担当：松本 香好美
11	運動負荷テストとそれに基づく運動処方			6	講義、担当：榎 淳裕
12-13	心電図の基礎波形、不整脈と運動			7	講義、担当：榎 淳裕
14	心臓機能の障害と運動制限			8	講義、担当：榎 淳裕
15-16	循環器疾患の理学療法の効果とその機序			9	講義、担当：榎 淳裕
17-18	循環器疾患のリスク管理			10	講義、担当：榎 淳裕
19-20	代謝疾患の理学療法の効果とその機序			8	講義、担当：榎 淳裕
21-22	代表的な疾患の理学療法：虚血性心疾患、心不全、糖尿病、腎障害			9	講義、担当：榎 淳裕
23	まとめ			1～12	講義、担当：榎 淳裕
24-31	呼吸理学療法の評価			5	演習、担当：松本 香好美
32-39	呼吸理学療法の治療技術			5	演習、担当：松本 香好美
40-44	吸引演習			5	演習、担当：松本 香好美
45-49	循環器疾患の理学療法演習			12	演習、担当：榎 淳裕
50-53	一次救命処置			12	演習、担当：榎 淳裕
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		標準理学療法学 専門分野 内部障害理学療法学	吉尾雅春、高橋哲也	医学書院	2013・5,250円
参考書		呼吸理学療法標準手技	千住秀明（監修） 他	医学書院	2008・3,200円＋税
		理学療法士のための運動処方マニュアル 第2版	奈良勲（編）、大成浄志（編）、川口浩太郎（編）	文光堂	2010・4,000円＋税
		循環器理学療法の理論と技術	増田卓（編）、松永篤彦（編）	メジカルビュー社	2009・5,700円＋税
		運動処方の指針 原著第8版	日本体力医学会体力科学編集委員会（監訳）	南光堂	2011・3,500円＋税
その他の資料					
【評価方法】 知識理解・技能の確認として小テストまたは課題提示を行う。 実技試験（口頭試問を含む）および定期試験で60点以上であることが単位取得において必須である。その点数に小テストまたは課題、出席状況、意欲的に取り組む授業態度等を加味し、成績を総合的に評価する。 評価の割合は、実技試験（口頭試問を含む）および定期試験90%程度、その他10%程度とする。				【履修上の留意点】 解剖学、生理学、運動学、内科学などの関連する科目を復習した上で、授業に臨むこと。 演習はTシャツ・短パンの上に医務衣を着用して授業に参加すること。 聴診器は2年次に購入した自分の聴診器を持参し使用すること。	